
ゴッドイーター ”もしもNGシーンがあったら ”

咲良

注意事項

「JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ゴッティーター」もしもNGシーンがあつたら

【著者名】

Z71630

【作者名】

咲良

【あらすじ】

「ゴッティーター」に、もしもNGシーンがあつたらどうなるか？
作者なりに作つてみたNGシーン集です。

ネタ系が苦手、または嫌いな方にはお勧めできません

(前書き)

初投稿です。

ゴッティーダイターをアンソロ風にイメージしてみた結果、NGシーン
ネタになりました。

下手ではありますが、どうか読んでやって下さい（苦笑）

冒頭で明かされる真実

サクヤ

「今日の配給、何だつナ?」

リンクウ

「ああ確かに新種のジャイアンツトウモロコシだ」

サクヤ

「えー? またあの『トウモロコシ』あれ食べへんのだよね...」

リンクウ

「この『』時世だ、食えるだけでも感謝しどけ」

サクヤ

「ねえソーマ、何かと交換しない?」

ソーマ

「こ、断るーんなモンいらねえー!」

サクヤ

「つれないわねえ...」

ソーマ

(あんなモン死んでも食いたくなえ...。俺はトウモロコシが嫌いな

んだよ…！…（

ツバキさんは以外とグルメだった

ツバキ
「ここ」が今日からお前達が世話になるフェンリル極東支部、通称・アナグラだ。メディカルチェックが始まるまで、施設を見回るようにな」

主人公＆コウタ

「了解！」

ツバキ

「特に、各フロアに設置されている自販機は念入りにチェックするように、こまめにな」

コウタ

「…はい？」

ツバキ

「今自販機で販売中の冷やしカレードリンクは人気商品だ。品揃えが変わるまでに飲んでおくことを奨める。他にもハムカツジュースやデミグラソース茶もオススメだ。今後も新商品が追加される予定で、更なる美食が期待できる予感が…（云々」

主人公

（なあ、ツバキさんて…グルメだな）

「ウタ

（そ、そうだね…。ていうか、デミグラソース茶って何なんだ…？）

メディカルチェックにて

サカキ博士

「よし、それじゃあそこのベッドに横になつて」

主人公

「は、はい」

サカキ博士

「なに、心配する事はないよ。次に目が覚めた時には、自分の部屋だ。ゆつくりお休み」

メディカルチェック終了後

ツバキ

「メディカルチェックは済んだようだな

主人公

「はい」

ツバキ

「…どこか身体に違和感はないか？痛む箇所もないか？」

主人公

「別にないですけど…、どうかしたんですか？」

ツバキ

「いや…サカキ博士の事だからな、『新型の構造にも興味あるんだよねえ』などと言つて、臓器等を観察されたかと思ってな…」

主人公

「…………」

ツバキ

「…『ウタにも聞いておいてくれ。念のためにな…』

主人公

「…了解…」

その後、メディカルチェックを一度と受けたくないと思つ一人であつた。

初任務にて

リンドウ

「おい新入り、実地演習を始めるぞ」

主人公
「はい」

リンドウ
「命令は三つ」

主人公
「…はい」

リンドウ
「死ぬな、死にそうになつたら逃げる、そんで隠れろ、運が良ければ不意をついてぶつ殺せ」

主人公
「了解します」

リンドウ

「ぶつ殺したら回復しろ、援護要請をしてそこから動くな、助けが来たらすぐ帰還しろ、助けが来れないなら敵に見つからないよう気配を消せ」

主人公

「あ、あの…リンドウさん？」

リンドウ

「動いたら終わりだと覚えとけ、何があつても死を認めるな、仲間を信じろ、大切なのは愛と勇気、そして…」

20分後

リンドウ

「……つて、いつの間にか200個に増えてるな。ま、とにかく生き延びろ。それさえ守れば後は万事どうにでも……つて、どうした新入り？」

主人公

「……いえ、何でもないです……」

初任務開始前から、どつと疲れた主人公であった。

サクヤとの初任務にて

サクヤ

「遠距離の神機使いとペアを組む場合、これが基本戦術だから覚えておいて」

主人公

「はい」

サクヤ

「うん、素直でよろしいー。さあ、始めるわよー！」

任務終了後

主人公

「はあ…」

コウタ

「何があつたの?」

主人公

「いや、何ていうかさ…。新型なのに、サクヤさんに背中預けっぱなしの俺つて、何なんだろうって思つてぞ…」

コウタ

（うわあ…）

ソーマとの初任務にて

エリック

「あ、キミが噂の新人クンかい?僕はエリック。キミもせいぜい僕を見習つて、人類の為華麗に(以下略)

ソーマ

「エリックー上だー!」

エリック

二二

「ボーッとするな！！」

その後

「なあ、教えてくれてもいいだろ？」

「黙れ」

主人公

「死んだ仲間の名前くらい覚えてやつてもいいだろ？？」

二二

「俺には関係ない……」

主人公

「はつきりしたらどうだ！あいつはエリックっていう外人なのか！？それとも上田っていう日本人なのか！？」

二二

「つるせえ！ 俺は”上だ”と警告しただけだつてんだろうが！ ！ 苗字なんか知るか！ ！ ！」

翌日、ソーマが頭痛と過労で一日休んだのは言いつまでもない…。

あのシーンの裏

コウタ

「イヤー、コンピュータ用意してます」

コウタ達が撤退した後

リンダウ

「行つたか？」

ディアウス・ピター出現

リングウ

「少しば休憩させてくれよ、煙草が勿体ないぜ」

リンドウ

(残りは三本か……。最高級の煙草……高かつたんだからよ……！)

その後の捜索隊の調査によると、最高級煙草の吸い殻が三本発見されたらしい。

(後書き)

初投稿初っ端からネタ作品になりましたw
いや、でも、これはこれでアリかなあ…なんて思つたり。
もし、また新たなNGが思い付いたら第一弾を出したいかなーと。
どうもありがとうございましたー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7163o/>

ゴッドイーター”もしもNGシーンがあったら”

2010年11月15日16時12分発行